

V 要約

1. ミナミクロダイの産卵は1984年1月8日に開始、同年3月17日に終了した。例年より産卵開始がやや遅れ、産卵期間が短くなり総採卵数は減少した。浮上卵率やふ化率が低率なのはピブリオ症状の魚病が長期化したことと摂餌不良が原因と思われる。マダイはミナミクロダイと同様な魚病が発生し親魚が多数斃死、その後も魚病の後遺症が影響して自然産卵は認められなかった。
2. ミナミクロダイの仔魚飼育は例年より歩留りがやや悪い。その要因としては卵質の低下、寄生性の原虫の発生によるものと思われた。
3. マダラハタの自然産卵は6月20日から4日間連続してあり6月23日に終了、第2回目産卵は8月24日にゴナトロピン注射を実施したところ8月29日から4日間産卵が認められた。産卵数は前年度より1千万粒増加して5.3千万粒で浮遊卵率平均は84%であった。
4. マダラハタの仔魚飼育は1t~74t水槽7面を使用、餌料はS型ワムシ、選別ワムシ、カキSP幼生投与による試験を実施した。全試験区とも日令5~7には大量減耗が生じ、日令10~14で全滅状態となった。カキ幼生投与区は平均摂餌数が4.2個と少なく、選別ワムシ区では残餌ワムシ密度が高くなって追加給餌が困難となった。日令4~6にかけて水表面で大量斃死している仔魚は原虫の付着が多数みられたことから斃死要因と関連があるものと思われた。
5. コガネシマアジの産卵は5月27日に開始され8月31日に終了した。産卵回数、産卵数とも7月が多く産卵盛期は7月中、下旬と推定できる。1回あたりの産卵数は26万粒で前年度と比較して約5.8倍、総産卵数は919万粒で約6.2倍の産卵増加量であった。
6. コガネシマアジの仔魚飼育には小型水槽3面、大型水槽3面を使用、小型水槽3面は15~18日の飼育日数で歩留りは31.8~44.6%であった。大型水槽3面の歩減りは第1回目日令5までに、第2回目は日令17~20の間に生じた。この時期の歩減りは500 μ 以上の大きな生物餌料の不足が考えられた。
7. ミナミクロダイの中間育成を実施し、早期種苗として4月3日~27日に16,280尾(33.0~36.0mm)出荷した。アルテミア幼生を給餌して歩留りの向上を図った。飼育期間中に細菌性疾病が発生し、多数斃死した。
8. コガネシマアジの中間育成を実施した。歩留りは17.7~53.0%でアルテミア給餌区が良好で天然プランクトン蝸集不足を補うことができた。
9. 昭和58年度におけるミナミクロダイ、コガネシマアジの養成試験結果は1984年3月3日に85尾を取り揚げたところ、50尾は正常魚で残りは奇形魚であった。50尾(平均体重115g、平均尾叉長17cm)は活魚としてkgあたり2,200円で販売取り引きされた。
10. ミナミクロダイ、コガネシマアジの輸送試験を静岡県沼津に3回、沖縄県大宜味村へ1回実施、ミナミクロダイは2回の平均歩留りは82%、コガネシマアジは2回の平均歩留りは93%であった。
11. コガネシマアジの養成試験を実施した。平均体重12.1g、平均尾叉長8.0cmの魚体が9.5ヶ月後(生後1年4ヶ月)には平均体重383.3g、平均尾叉長26.6cmに達した。日間成長率